



今月は「カザフスタン」を覚えてお祈りください

カザフスタンは中央アジアとヨーロッパにまたがる共和制国家である。首都はアスタナ、最大都市はアルマトイ。ロシア連邦、中華人民共和国、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタンと国境を接し、カスピ海、アラル海に面している。

カザフスタンの経済・政治・宗教について

原油と鉬石の埋蔵量が非常に多い。カザフスタンは世界で最も早く経済成長を続けている国の一つだが、経済成長の恩恵を受けているのは国民の少数だけだ。国民の大多数は貧しい生活を強いられ、彼らは放射能、悪い水、公害といった諸問題の被害者でもある。

カザフスタンは旧ソ連の崩壊後 1991 年に独立を宣言した。政治は多政党によって行われているものの、1991 年からの大統領が、独裁的に支配しており選挙においては不正が繰り返されている。国内の様々な活動に対する国の規制が積極的に検討されている。

共産主義にあって宗教活動は禁止されていた。今日、伝統的に認められてきた組織だけが自由に活動できている。イスラム教徒の積極的な布教活動は政府の反感をかっている。イスラム教以外の宗教をも禁止するための法律が必要であると議論されている。これが実現すればキリスト教の布教活動は完全に禁止されることになりキリスト教徒も迫害の対象になりかねない。

カザフスタンのその他の情報

面積:2,717,300 km² (日本の約 7.2 倍) 人口:15,753,460(日本の約 12% 2010 年時点)



宗教:	
イスラム教	53.68%
無宗教	33.94%
キリスト教	12.15%
仏教	0.15%
土着宗教・ユダヤ教・その他	0.08%

首都アスタナ 中央アジア最高レベルの世界都市であるアルマトイ ボールの谷

「天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを茫漠としたものに創造せず、人の住かにこれを形造った方、まことに、この主がこう仰せられる。『わたしが主である。ほかにはいない。』」 イザヤ 45:18

祈禱課題

カザフスタンの経済成長を覚えて

莫大な自然資源によってカザフスタンは大きく変わりつつある。近代的な建物が多く建設されており、工業団地が拡大しつつある。これらは就労のチャンスと国民に与えているので幸いである。一方、経済的な恩恵によって非常に富んでいるのはエリート階級に限られる。特に郊外に住む人々は貧しい生活を強いられている。経済的な祝福がある一方で、不正や物質主義的な考え方が蔓延している。カザフスタン政府がすべての国民の幸せを願って働くことが必要だ。十分な賃金が保証される職場が多く必要だ。

福音が行き届いていない少数民族を覚えて

カザフスタンの文化や宗教はとても多様である。そのために中央アジアの民族に福音を伝える機会が多く与えられている。注目すべき数のウズベク人やウイグル人たちがキリスト教となっている。そして彼らは自分たちの民族に福音を持って帰っている。キリスト教の教会は主に都市部にしかないが、最近では郊外の村々にも福音宣教をしている団体が増えてきている。カザフスタンに住む多くの部族が、自分たちの言語で福音を聞くことができるように。

カザフスタンの教会を覚えて

カザフスタンの教会を構成している人種は、白人からアジア人へとゆるやかに変化してきている。教会は確実に成長している。聖書の訓練が必要とされている。過去には十分な数の聖書学校などが存在したが、法律が変わったことでこれらが閉鎖されてしまった。通信教育が今後用いられていく可能性がある。教会会員の 26%だけが男性である。御霊に満たされた、カザフ人働き人を主体とした働きが多く必要だ。迫害が増している。特に政府権力、イスラム過激派、また未信者の家族によるキリスト教への迫害が多い。教会やキリスト教が一致と忍耐によって立ち続けることができるように。